



ササラまつり

8月14日(木)、内田公民館・内田地区福祉ひろばにて「内田ササラまつり」が開催されました。当日はとも暑く、会場であつた大喜び。ちびっ子から大人までたいへん多くの方々にご来場いただきました。まつりの幕開けは「内田ササラ踊り」。歌い手の丸山幸英さんから、踊りの歴史についてお話がありました。この踊りは、かつてこの地に官牧があつた時代、献上馬を送り出す際の身振り手振りが起源とされ、後に牛伏寺の信仰と結びついて発展したと伝えられています。現在は、松本市内田と塩尻市南内田など、限られた地域でのみ伝承されています。また、踊りの所作である「数歩進んでまた戻る」には、献上馬との別れがたい気持ちが込められているそうです。

私が子どもの頃、ササラ踊りをする機会がありました。当時は動作を覚えて、音楽に合わせて動いているだけでした。しかし、丸山さんの話を聞いて、歌い手3人と三味線5人による生演奏に心を重ねながら踊ること、より深く思いを込めることができました。最後は「内田よいとこ一度はおいで」の歌詞で締めくくられ、ササラまつりのよいスタートとなりました。踊りが終わると、わたあめ、かき氷、やきとり、やきそば等が無料提供されました。また、ヨーヨーすくい、スパーボールすくい、ボウリング、わなげといった遊びのコーナーもあり、「わあ、取れた!」「入った!」と、子どもたちの楽しそうな声が会場に響いていました。

こうした賑わいの中心で活躍してくれたのが、ボランティアとして参加してくれた明善中学校の皆さんです。緊張しながらも笑顔で接客やアナウンスをこなし、準備から片付けまでフル稼働。若さあふれるエネルギーでまつりを盛り上げてくれました。かき氷の屋台では「今なら大盛りです!冷たくておいしいですよ!熱中症対策にどうですか?」といった元気な呼びかけが印象的で400食分が提供されました。やきそば・やきとりは行列、他の屋台も大盛況でした。明善中学校の皆さん、ありがとうございました。

日が暮れる頃には、ビンゴ大会が始まりました。高級ブドウの詰め合わせや、大人も楽しめる手投げ式グライダーなどの景品が並び、私も含め多くの方が参加。私はリーチまでいったものの、景品がなくなってしまう終!残念!まつりのクライマックスは打ち上げ花火。私は、ほぼ真下から見ているのですが、遠くから眺めるのとは違い、立体的に花火が降り注いでくるさまは想像以上に迫力があり、思わず歓声を上げてしまいました。周囲からも歓声が上がリ、まさにまつりの締めくくりにふさわしい感動の瞬間でした。

内田のササラ踊りは、市の重要無形民俗文化財に指定されており、これからの文化をみんなで守っていきたいですね。

館報編集委員 前澤 祐司



令和7年9月1日現在

世帯数	1,010 戸
人口	2,280 人
男	1,130 人
女	1,150 人



子ども防災合宿

7月25日(金)～26日(土)にかけて子ども防災合宿がありました。今年は約20名の参加者がいました。

毎年行われているこの事業は、災害について学びながら、実際に様々な体験をする合宿です。今年は、その一環として、地震体験車が来しました。震度7の揺れに参加した子ども達

はもちろん、スタッフの皆さんも体感しました。思ったよりも激しい揺れに机の下に潜るなど、基本的な行動の大切さを改めて学ぶことが出来ました。

その後は、夕食です。メニューはカレーですが、作り方が違います。災害時を想定してアイラップという耐熱のポリ袋に食材を入れ湯煎する調理方法です。また、本来な

アイラップを使った
ツナカレーレシピ

- 材料
ツナ缶(油漬) 1/2缶 (35g)
ジャガイモ 1/4個 (40g)
にんじん 1/6本 (25g)
玉ねぎ 1/4個 (50g)
水 120ml
カレールー(細かく切る) 30g
- (1) ジャガイモ、にんじん、玉ねぎを火が通りやすい大きさに切ってアイラップに入れる。
 - (2) アイラップにツナ、水、ルーを入れて全体を馴染ませる。
 - (3) アイラップの空気を抜き、アイラップの口を上の方で縛る。
 - (4) 沸騰したお湯に入れ、30分から40分加熱したら、完成!

が、いざという時、この二日間の経験を生かしてほしいです。最後にお手伝いいただいたスタッフの皆様ありがとうございました。

普段とは違う、カレーに子ども達は少し戸惑いながらも美味しく食べていました。夜は、ダンボールベッドの組み立て、そして実際にそのベッドで寝るなど、なかなか味わうことのない体験の連続でした。

肉の代わりには、お肉の代わりにツナを利用したツナカレーです。

松本カントリークラブ
史上初の
ゴルフ三大競技制覇

7月27日(日)、生涯忘れられない日になりました。

明善中学三年時、野球部に所属していた私は市大会で敗れ、夏休みに父親の勧めで初めてクラブを握りました。高校、大学、研修生と進みゴルフは私の人生の生きがいとなりました。プロを志しました

が厳しさを知り、家業の傍らアマチュアの道に徹しました。



歴史と伝統を誇る松本カントリークラブの三大競技、5月18日「理事長杯」、6月19日「スクラッチ競技」そして今回の「クラブ選手権競技」を制し優勝の栄誉に輝いたことは、始まって以来の快挙との事で、ゴルフをやっている本当に良かった。今後ともますます精進し、重ねて松本カントリークラブ様のご発展をお祈り申し上げます。 百瀬 将道

内田地区球技大会結果

7月6日(日)開催

ソフトボール

ソフトボール

ソフトボール

ソフトボール

優勝	第9町会
準優勝	第5町会
第三位	第1町会
優勝	第6町会
準優勝	第3町会
第三位	第5町会
優勝	第3町会
準優勝	第2町会
第三位	第6町会
優勝	第4町会
準優勝	第9町会
第三位	第8町会

東南ブロック球技大会結果

8月31日(日)開催

内田地区順位

新卓球

バドミントン

マレットゴルフ男子

ソフトボール

6位	芳川・内田・寿台同チーム
2位	40歳以上の部
5位	3位
2位	(内田・松原合同チーム)
3位	

参加された皆さん、役員としてかわった皆さん、お疲れ様でした!

つれづれ編集記

松本の夏の風物詩といえは「松本ほんぼん」を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。今年は8月2日、141連7,400人が参加して行われました。

私も「松本ほんぼん」には何度か参加させていただきました。歌と踊りで夏の一夜を楽しむことが祭りの魅力であることは言うまでもないことですが、私はこの祭りを通じて、多くのことを経験させていただきました。

20代の頃、東京から松本にUターン転職して2年目の夏「連長」に指名されました。まだ社内の子も分からず、狭い人間関係しかなかったときでした。準備を通じて普段関わりの無い他部署の方々と話をする機会があり、多くの人と知り合いになることができました。

50代の頃、会社の業務として「松本ほんぼん」の実行委員会に参加する機会がありました。1日限りのイベントを安全に運営できるように多くの方々が支えていることが分かりました。

祭りの掛け声「じんじょ」は漢字では「仁恕」と書き思いやりを意味するそうです。多くの人達の思いがこの祭りを紡いでいるのでしょうね。

第7町会 小澤 敦志